

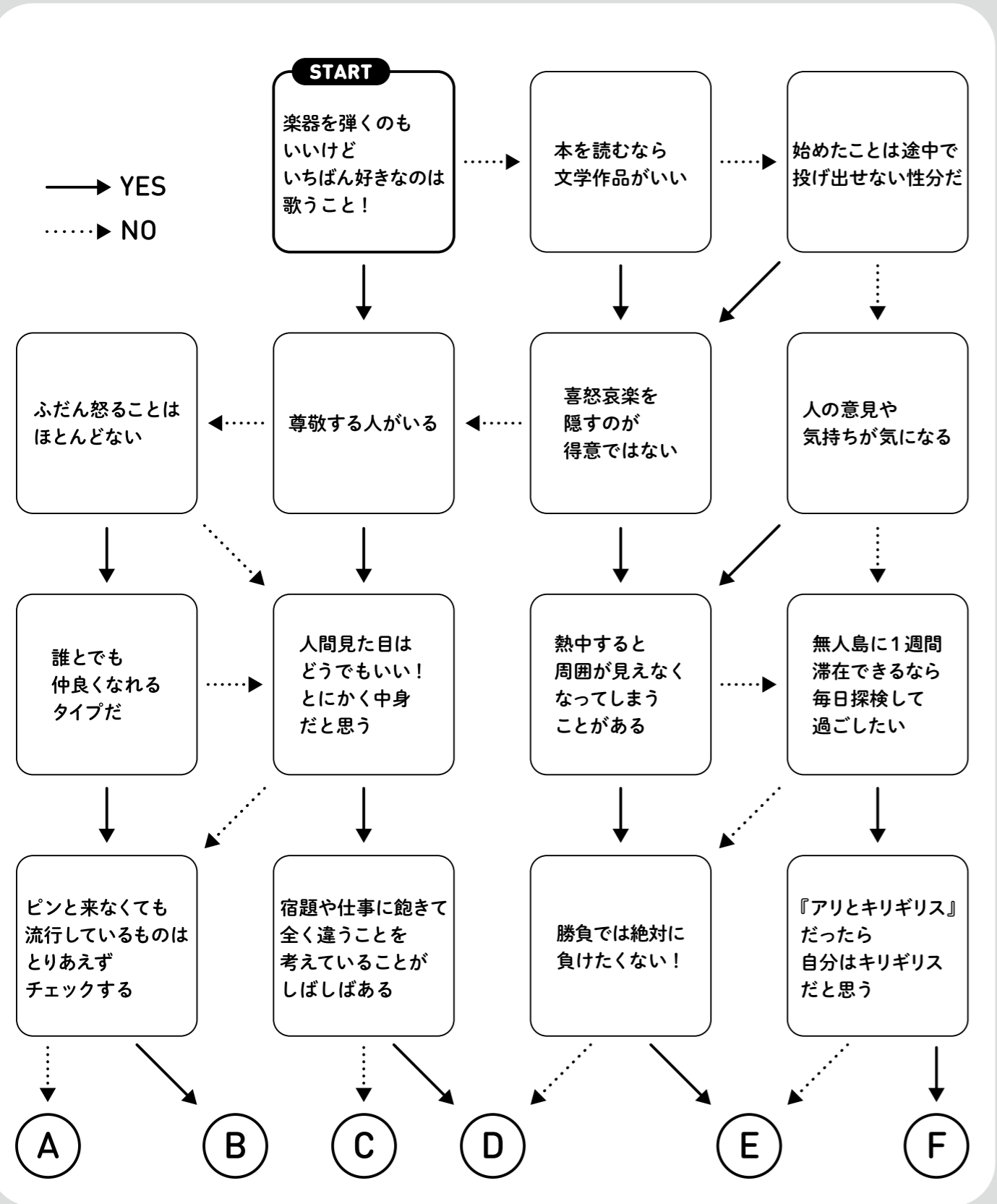
# 音楽診断

第5回

## オーストリアの作曲家編

『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第5弾。今回のテーマはオーストリアの作曲家です。オーストリア出身の有名な6人の作曲家の中から、あなたに似ている人物をご紹介します。

監修・解説 = 奥田佳道  
Text = Yoshimichi Okuda



あなたのタイプは?

### A 「パパ」と慕われた国際派 ハイドン (1732-1809)

幼少の頃は合唱団(ウィーン少年合唱団の前身)で歌い、大人になってからはボヘミアの名家を経てハンガリーの貴族エステルハージ侯爵家に長く仕えた。パリでもその名を知られ、晩年には2度ロンドンに招かれた国際派である。ウィーン古典派の「パパ」で、たくさんの交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノ・ソナタの他、『天地創造』など声楽曲もすばらしい。モーツァルトを高く評価。ベートーヴェンにも好ましい影響を与えた。長生き。

\*ハイドンは、周囲の人々から「パパ・ハイドン」という親しみを込めた愛称で呼ばれていた。



### B 社会情勢に敏感、人々に愛されて華やかに活動 ヨハン・シュトラウス2世 (1825-1899)

言わずと知れたワルツ王。弟ヨゼフ、エドゥアルトもワルツやポルカの素晴らしい作曲家。彼らの父は『ラデツキー行進曲』を作曲したヨハン1世(父)。というわけでヨハン2世はシュトラウス・ファミリーの顔でもある。一夜に舞踏会を掛け持ちするほどのスターでロシア、アメリカでも演奏。オペレッタ『こうもり』も代表曲。もともと男声合唱曲として書かれた『美しく青きドナウ』は歌詞が変わり、オーストリア第二の国歌となった。



### C 誠実な人柄で友人にも恵まれた“歌曲王” シューベルト (1797-1828)

声変わりするまでコンヴィクトと呼ばれたウィーンの寄宿制神学校でサリエリに学ぶ。多数の宗教曲、交響曲、弦楽四重奏曲、室内楽、ピアノ・ソナタ、歌劇を作曲。特に歌曲王として知られる。『糸を紡ぐグレートヒェン』『野ばら』『魔王』『美しい水車小屋の娘』『冬の旅』と枚挙にいとまがない。交響曲では没後に陽の目を見た『未完成』や『グレート』が有名。屈指のメロディーメーカー(旋律作家)だが、筆致は思いのほか大胆。



### D 信じたものには一直線、自分に正直な探求者 ブルックナー (1824-1896)

ドナウ河畔の小村に生まれ、教師を経てリンツ大聖堂のオルガン奏者となる。ウィーンの音楽理論家から対位法や和声法などを学び、ウィーン楽友協会附属音楽院の教授、オルガン奏者として活動。その後、孤高の作風をもつ交響曲の作曲家として歩み出す。しかし長らく認められなかった。周囲の意見や本人の考えもあり、一度書いた交響曲を何度も改訂したことで有名。ゆえに多くの稿や版(出版譜)が存在。熱狂的なファンをもつ。



### E 惹きつけられる魅力たっぷり、指揮者としても大活躍 マーラー (1860-1911)

「やがて私の時代が来る」と「予言」したとか。ボヘミア生まれのユダヤ人。ウィーン楽友協会附属音楽院で学ぶ。敏腕のオペラ指揮者として東欧、中欧でキャリアを重ねるとともに、大規模な交響曲を作曲。奇しくもブラームスが亡くなった1897年にカトリックへ改宗し、ウィーン宮廷歌劇場の監督に就任。その後メトロポリタン・オペラ、ニューヨーク・フィルでも活躍。交響曲や歌曲が有名である。



### F 大人気を博した“神に愛された者” モーツァルト (1756-1791)

ザルツブルクの宮廷音楽家でヴァイオリンの名教師でもあった父レオポルトに連れられ、幼少の頃からイタリア、イギリス、今のドイツなどを旅。ザルツブルクの大司教と決裂後、ウィーンを拠点にしばらくの間はフリーランスの音楽家として活動。新作を披露する予約演奏会で人気を博す。「神に愛された者」という意味のアマデ(後にアマデウス)をミドルネームにもつ。バロックの技法にも精通。あらゆるジャンルに傑作を書いた。



奥田佳道(音楽評論家)

1962年東京生まれ。ヴァイオリンを学ぶ。ドイツ文学、西洋音楽史を専攻。ウィーン大学に留学。NHKや日本テレビ、WOWOWの音楽番組に出演。現在NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」パーソナリティのひとり。「ラジオ深夜便(奥田佳道のクラシックの遺産子)」などに出演中。著書に「これがヴァイオリンの銘器だ」(音楽之友社)ほか。